

# 緊急時の対応、危機意識の啓蒙 全町あげての防災訓練を提案！

# 町民一人一人の為にできることは？ 全町総合防災訓練の実施を提案 行け！ 商工会青年部



## 「白い精鋭」 第5普通科連隊

## ホタテ採苗技術 白鳥生態調査

### 陸上自衛隊第5普通科連隊協力会に入会

一般質問

\*一部抜粋

全町総合防災訓練を実施するべきだ

全町あげての防災訓練は  
やったことがない

(田中大)

当町での大規模防災訓練は、平成25年6月25日に実施された「茂浦地区 津波災害防災訓練」が最後となっています。この訓練は、青森湾西岸断層帯、いわゆる入内断層による地震発生に伴い津波が発生したとの想定のもと、まずは高台へ避難し、その後避難所への移動を行うものでした。参加者は行政、消防署、消防団、地域住民を含む400名以上にのぼり、避難所での炊き出し、発電機講習会、救急救命講習会なども実施されたとのこと。この訓練では、各行政協力委員（現・行政連絡員）にも情報提供が行われ、見学も自由であったことから、特に沿岸部の町内会からの見学者が多かったと記憶しています。

しかし、この大規模防災訓練からすでに12年が経過しようとしています。近年の災害リスクや、南海トラフ地震の発生が予測される今こそ、大規模災害を自分事として町民一人一人に再認識していただくため、全町総合防災訓練を実施するべきだと考えます。

マンパワー不足などで実施できない

(町長)

防災専任職員の配置などマンパワー不足や自衛隊など関係機関との詳細な調整や準備が必要なこと、地域によって発生する災害の形態が異なることなどを踏まえると実施は難しいものと考えております。

陸上自衛隊も協力する

(田中大)

確かに、全町あげての訓練ともなれば、難しいことは理解します。しかしながら、地震・津波を想定した全町あげての訓練を実施することによって、今まで気付かなかった課題も見えてくるはず。先日、陸上自衛隊青森第9師団第5普通科連隊長と懇談する機会がありました。町及び町内会単位の防災訓練にも、救助や炊き出し訓練等で協力させていただきたいとのことでありました。是非、自衛隊協力のもと、実践さながらの訓練が必要と考えます。

町道支障木の切除を

町道に枝が落下し危険だ

(田中大)

町道には、樹木の枝や生け垣が道路に張

り出し、歩行者や車両の通行を妨げる事例が見受けられるほか、枝の落下による危険が生じ、多くの町民から対応を求める声が寄せられております。

従来の民法の規定では、隣地から越境してきた木や竹の枝については、土地所有者がその所有者に伐採を依頼する以外の手段がなく、対応が進まない場合も少なくありませんでした。しかし、令和5年4月1日に施行された民法第233条の改正により、越境された土地の所有者は「竹木の所有者に枝を切除させることができる」という原則を維持しつつ、「竹木の所有者に枝を切除するよう催告したにもかかわらず、竹木の所有者が相当の期間内に切除しないとき」、「急迫の事情があるとき」には、「越境された土地の所有者は、越境した枝を自ら切除することができる」と定められています。

町道管理者としては、この民法の改正規定を適切に活用し、町道にはみ出した枝を速やかに切除することで、通行車両や歩行者の安全を確保すべきではないかと考えます。今後の対応方針をお示しく下さい。

適切に対応する

(町長)

民法は改正されましたが、急迫の場合を除いては、所有者との間でトラブルを起こさないために、今までもどおり所有者と協議し、適切に対応していきたい。



# 陸上自衛隊第5普通科連隊協力会に入会

# 第5普通科連隊八甲田演習に伴う参拝行事に参加



この度、10月に「陸上自衛隊第5普通科連隊協力会」に入会いたしました。12月13日には忘年会が開催され、私のデビュー戦となりました。

忘年会では、自衛隊の皆さんと和やかな雰囲気の中で懇親を深めるとともに、日頃の活動について学ぶ貴重な機会をいただきました。お話を伺う中で、日々私たちの暮らしの安全を支えてくださっている自衛隊の皆さんの努力に改めて感謝の気持ちを抱きました。



今後は町民の安心安全のため、自衛隊との絆をさらに深めていきたいと考えています。



1月17日、青森市の幸畑陸軍墓地で行われた第5普通科連隊の参拝行事に初めて参加しました。この行事は、1902年に旧陸軍歩兵第五聯隊が八甲田山系での雪中行軍中に遭難し、199名の隊員が犠牲となった歴史を受け継ぎ、その教訓を未来につなぐために毎年実施されているものです。参加者は、慰霊碑に鎮魂の祈りを捧げるとともに、厳冬の八甲田で行われる演習の無事を祈念しました。

今回も、雪深い八甲田山系を舞台にスキー行進を含む雪中訓練が行われます。隊員の皆様が「白い精鋭」として、過酷な環境の中での演習を無事に終えられることを心より願うとともに、先人の犠牲を忘れずに、さらなる技術と精神力を磨かれることを期待しています。

2月16日、陸上自衛隊第9師団第9音楽隊の定期演奏会に初めて参加しました。伺ったところによると、この演奏会に参加するための抽選倍率は極めて高く、まさに狭き門とのことでした。今回はその貴重な機会に恵まれ、期待に胸を膨らませながら会場へ向かいました。

演奏が始まると、会場は瞬く間に音楽の世界に包まれました。力強さと繊細さが絶妙に調和した音色、息の合ったアンサンブル、そして迫力あふれる演奏に心が震えるような感動を覚えました。

この感動を平内の皆様にもぜひ味わっていただきたい、そう強く感じました。今後、皆様にも鑑賞の機会をお届けできないか、その可能性を模索してまいります。

# ホタテ採苗技術の未来を探る

2月3日、階上町にある「公益社団法人青森県栽培漁業振興協会」を訪れ、ホタテ養殖漁業の未来を探るための視察を行いました。この日は、業務執行理事である二木幸彦氏に温かく迎え入れていただき、陸奥湾の現状について意義ある意見交換を交わすことができました。

その後、ミネフジツボを用いた採苗生産技術に焦点を当てた見学を行いました。この技術は、ホタテ養殖漁業においても重要な役割を果たす可能性を秘めており、その詳細を学ぶことができたのは非常に有意義でした。今回の視察を通じて、ホタテ養殖漁業が直面する課題について理解を深めることができました。困難な状況が続く中ですので、今後もホタテ養殖技術の更なる発展を目指して学びを重ねていく所存です。

# 行け！青年部！！

2月1日、平内町商工会青年部が初めて開催した「未来創造交流会」に参加しました。

第一部では、(株)マルサンファーム代表の田邊真太郎氏による「人口減少を見据えた未来予測」と題した講演が行われました。田邊氏は、人口減少が進む中で町がどのように対応していくべきかを具体的な未来像を描きながら提案してくださいました。その洞察力には、参加者一同から大きな賞賛が寄せられました。

第二部では、町役場総務課から町財政に関する貴重な説明がありました。この情報共有が町民一人ひとりの意識を高め、より良い町づくりにつながることを期待しています。

私は、商工会青年部OBとして、青年部が地域の未来について真剣に考えていることを頼もしく感じるとともに、このような意義深いイベントを成功させたことを心から誇りに思います。どんどん行け！青年部。

# 白鳥生態調査

浅所海岸を訪れる白鳥の生態調査に協力しました。

平内町では、浅所海岸に飛来する白鳥の生態や移動経路を詳しく調査し、保護活動に役立てるための取り組みを進めています。その一環として、2月10日、私も4羽の白鳥に小型カメラとGPS端末「スワンアイズ」を装着する作業に携わりました。

スワンアイズは、白鳥の位置情報を4時間ごとに1日6回記録し、さらに1日3回、白鳥の視点から撮影した画像を取得します。これらのデータは、「スワンプロジェクト」のホームページで公開されており、どなたでもアクセスして白鳥たちの様子を確認できます。

この貴重な調査に協力してくれた白鳥たちに感謝するとともに、今後も町民の皆さんと一緒に白鳥を守っていききたいと思います。

